

2024年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

鈴鹿サンデー第2戦、レースウィークで自己ベストタイムを大幅更新
予選～決勝でも自信に満ちた走りで見せた!

5月18日(土) 公式予選 9:05～9:25◎天候・路面:Fine/Dry

#11 遠藤翔類 4位/2.22'858

#19 戸高綸太郎 10位/2.24'143

鈴鹿サンデーロードレース第2戦が開催され、HRS鈴鹿Motoクラスアドバンスコースの2名がJ-GP3クラスに参戦した。予選が行われた5月18日(土)、鈴鹿サーキットの上空には抜けるような青空が広がり、初夏を思わせるような陽気となった。

遠藤翔類、戸高綸太郎の2名は、前日の特別スポーツ走行でそれぞれ自己ベストタイムを記録し、その好調さを維持したまま予選に臨んだ。セッションでは、遠藤、戸高両名ともあえて単独で走行。遠藤は7周目に前日に記録した自己ベストタイムに迫る2.22'858を記録する。

「ミスが多かった」と遠藤自身はコメントしているが、総合4番手という結果は優勝を十分に狙える位置だ。

遠藤同様、前日の練習で自己ベストを大幅に更新した戸高は、予選では練習ほどのタイムは出せず、2.24'143で予選10位、4列目からのスタートとなったが、状況次第では十分に前を狙える位置につけている。



TAICHI

Arai

EARPEACE

EIKO
Glory of Karting

EXGEL®
Motorsport

NGK
SPARK PLUGS

ENDLESS
Challenge to the Future

ODYSSEY
ULTIMATE BATTERIES

FRONTIER
RACING

Sabelt

CCI
CO-CORPORATION

ThreeBond

DUNLOP

TODA
RACING

TONY/KARI
23 24 25 26 27 28 29

TORAY
Toray Carbon Magic

重夢

BRIDGESTONE

PETRONAS

hit-air

mooncraft

rizoma

WAKOS

5月19日(日) 決勝レース(フルコース8周) ◎天候・路面: Rain/Wet

#19 戸高 綸太郎 総合6位/ナショナル3位/NSFチャレンジ2位
#11 遠藤 翔類 リタイヤ(転倒)

快晴だった予選日とは打って変わり、この日は朝からぐずつき気味の空模様。やがて雨が降りはじめ、ウェットレース宣言によって決勝は2周減算の8周となった。

予選4位からスタートした遠藤はそのままの順位でオープニングラップを通過し、前を走る3台の後方で上位をうかがう構えを見せていた。そして予選10位の戸高は、絶妙なクラッチミートで1コーナーまでに一気に前に出ると、オープニングラップを6番手で通過した。

レース序盤は6人のライダーがトップグループを構成し、遠藤、戸高両名もその中で熾烈なポジション争いを繰り広げる展開。レース中盤に入ると、遠藤はトップに浮上するが、その後のヘアピンの立ち上がりでリアを滑らせてしまい、ハイサイドで転倒。再スタートを試みるもエンジンは始動せず、残念ながらリタイヤとなった。

戸高は7番手で最終ラップに突入。一時は開いたかに見えた前方のライダーとの距離をじりじりと詰めると、日立ASTEMOシケインで1人を抜いて総合6位、クラス3位でチェッカーを受けた。



ナショナルJ-GP3表彰式(優勝:中川尚人、2位:針尾大治郎、3位:(右)戸高綸太郎)



2024年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選10位 決勝総合6位(ナショナル3位/NSF
チャレンジ2位)**

戸高 綸太郎(とだかりんたろう) 13歳

『ユーズドのタイヤで走った特別スポーツ走行でベストタイムを出せました。予選では2分22秒台を目指したのですが、130Rの進入でシフトダウンするポイントが少し早すぎて、結局タイムを縮められませんでした。決勝ではスタートが上手く決まりました。ですがレース中盤、日立ASTEMOシケインの立ち上がりで白線に乗ってすべってしまい、ポジションを落としてしまいました。それでも、これまでは雨に苦手意識がありました。今回のレースでフロントを押しグリップを出す感じをつかめました。今回はナショナル3位という結果を残せましたが、やはり総合で優勝したいので、この結果には満足していません。タイム的には良かったかもしれませんが、もっとミス減らしてトップ集団に食らいついて、どんどん仕掛けていかないと優勝は難しいです。第3戦では予選からいい位置を確保して、決勝でさらに上を狙いたいです』



ナショナルJ-GP3クラス: 予選4位 決勝転倒リタイヤ

遠藤 翔類(えんどう かける) 14歳

『開幕戦でクラス優勝したことで自信が持てるようになりました。それ以降、普通の練習からペースも上がって行って、今回の特別スポーツ走行で自己ベストの2分22秒6を出せました。ただ、予選は少し力が入り過ぎていたためか2分22秒8でベストタイムには届きませんでした。自分は雨が得意なので、決勝は気持ち的にも余裕がありました。トップに立ってからは後方を離すつもりでプッシュしましたが、ドライコンディションのような走り方をしてしまい、操作もラフになっていました。その結果ヘアピンでハイサイド、転倒してしまいました。総合優勝を目標としていたので、今回の結果はとても悔しいです。とはいえ今日のレースは、得るものも多かったと思います。次回のレースまでには、今回練習で記録したタイムをすぐに出せるように、レースを想定、意識した練習を重ねて、イメージトレーニングもしておきたいです。次こそは優勝します!』



2024年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書



岡田忠之Principal

『練習走行で遠藤が(2分)22秒台、戸高も23秒台前半を記録できました。ウィークの流れはとても良かったですね。予選もそれぞれがあえて単独で走り、自力でタイムを記録しています。遠藤は周りのペースが上がらない中トップに立ちましたが、残念ながら転倒してしまいました。とはいえトップを走ったという事実は、自信につながるでしょうね。そして戸高も今回のレースを走り終えて、雨に対する苦手意識を克服できたんじゃないかと思います。2年目となる遠藤は、去年はメンタル面の弱さが目立ちました。ですが今回はベストタイムを更新できて、そういったメンタル面での弱さを克服できました。戸高もグリッドは悪かったけど、スタートはとても良く、いいポジションにまで上がれました。ハンドルを押してグリップの感覚を掴めたとコメントしていましたが、レース中にいろんなことをトライできる余裕も持てるようになりました。2人とも自分なりに頑張っているし、自信もつきましたね。この自信はきっと次のレースでいい結果につながるでしょう。今回出すことができた自己ベストタイムを次回も記録し、さらに上回るタイム、結果を出せるよう、インターバルの間も緊張感をもって練習を重ねてほしいと思います』

